

雄島の守り神

西村直樹 福井県立美術館主任学芸員

1962(昭和37)年、三国にある小野忠弘のアトリエに、現代美術作家サム・フランシスと出光真子(出光興産創業者出光佐三の末娘でアーティスト。後にサムと結婚)、美術評論家の瀧口修造、南画廊のオーナー志水楠男が訪れた。サムは小野の作品《アンチプロトン》を激賞し、出光は雄島の圧倒的な美しさに感銘を受けた。この時あまりにも雄島を気に入った出光は、雄島を買い取りたいと申し出たと言う。また雄島を案内した小野自身、かつて写楽の素性を追って三国を訪れ、雄島周辺に見える海岸線の闇の深さを気に入って定住を決めた一人であった。

人々を魅了する何かが宿っている雄島。その橋向かいには大湊神社がある。雄島を神の島とし保持する大湊神社には、後に福井県立美術館学芸課長や福井市美術館初代館長を歴任する神主松村忠祀がいた。松村は独特の風貌と特徴のある甲高い声・言い回しで会うものに忘れがたい印象を与える人物であった。彼は、芸術の素晴らしさ、自然の尊さ、人間のあるべき姿等を、相手が誰であっても臆することなく説き、福井の美術文化の発展に貢献した。続く後進達は、松村に勇気づけられ、進むべき方向を誤らなかった。

松村は生涯を通じて小野忠弘を敬愛した。また小野も雄島の自然を愛し続けた。雄島を観光地化すべく開発話が舞い込んでも、松村は決して譲ることなく、手つかずの自然を守り抜いた。その松村が雄島に散策路となる石路をつくる際、石の配置と監修を小野に依頼した。そして、二人は力を合わせて美しい路を完成させた。

松村の芸術や自然に対する想いと、それらを守ろうとする信念は揺るぎないものであり、それは生涯に渡って貫かれた。雄島の自然が今でも厳然と保たれているのは、松村忠祀という守り神がいたからに他ならない。



【松村忠祀(タダノリ)経歴】

昭和11年 2月 20日生まれ
昭和30年 3月 福井県立三国高等学校卒業
昭和36年 3月 國學院大學文学部神道学科卒業(明階・学芸員資格取得)
昭和36年 4月 賀茂別雷神社(京都市)奉職
昭和41年 4月 福井県立図書館に奉職
昭和45年 4月 大湊神社禰宜となる
昭和48年 4月 福井県教育庁文化課文化財調査員となる
昭和50年 4月 福井県立美術館建設準備室学芸員
昭和52年10月 福井県立美術館学芸課学芸員
昭和57年10月 福井県立美術館学芸課長
平成 3年 6月 大湊神社他15社の宮司となる
平成 9年10月~平成20年3月 福井市美術館(アトラボ福井)初代館長
平成30年12月25日 死去(享年82歳)



開館日:3月~11月の金・土・日曜日及び祝祭日
休館日:12~2月及び3月~11月の月・火・水・木曜日
開館時間:午前10時~午後4時
入館料:無料 ※駐車場はございませんので、
みくに龍翔館をご利用ください。
〒913-0048 福井県坂井市三国町緑ヶ丘三丁目6-13
TEL&FAX:0776-81-3556